



弁護士深草徹の「ここがポイント」

## 憲法九条の果たしている役割

深草 徹



明治維新後、帝国軍隊が発足したのは明治 4 年。その創業の銘は、「専守防衛」と「国内の治安維持」でした。戦後の日本で、1954 年に発足した自衛隊に与えられた任務と、同じですね。

帝国軍隊は、生まれて間もなく、その創業の銘を放擲（ほうてき）し、海外で戦争をする軍隊に転じてしまいました。ざっと、その経過を追うと、以下の通りです。

明治 7 年 5 月に、3000 もの兵を台湾に送り込み、原住民を殺戮（さつりく、征台の役）。明治 8 年には、軍艦を朝鮮に送り、砲撃を加えて開国を強要（江華島事件）。明治 13 年、山縣有朋参謀本部長が、対清戦争を想定した軍備の充実を図ることを、上奏（隣邦兵備略）。その後、帝国軍隊は膨張を遂げ、65 年間にわたって侵略の軍隊として、その猛威をアジア全域に振るいました。

一方、自衛隊の方は、どうでしょうか。安倍政権は、集団的自衛権を容認した安保法制強行後も、専守防衛の建前を維持しているではありませんか。

それが自衛隊発足後、63 年を経た今日の現実であり、ここに憲法九条の果たしている役割があります。それですから、安倍首相は必死に、憲法九条を変えようとしているのです。

私たちは断じて、それを許してはなりません。

（九条の会. ひがしなだ共同代表、深草憲法問題研究室主宰）

## 九条の会. ひがしなだ 11 周年

### 小森陽一氏が「夏目漱石」で記念講演

### 内田樹さんとの対談も多彩な話題で

九条の会. ひがしなだは 5 月 21 日（日）、三宮の神戸市勤労会館で 11 周年総会と記念講演会を開催しました。小森陽一先生のお話を聞く会との共催。

第一部では、小森陽一・東京大学大学院教授（九条の会事務局長）が、「夏目漱石と平和思想～個人・自由を尊重し、新憲法の源流に」と題して記念講演しました。冒頭で小森氏は、憲法九条に自衛隊保持を明記する



第 3 項の加憲は、「公明党を抱き込むための姑息な欺瞞、猫だまし改憲」と喝破。漱石をめぐる五つの戦争（戊辰戦争、西南戦争、日清戦争、日露戦争、第一次大戦）と「吾輩は猫である」など著名小説の関連を示し、「憲法九条に結実した人間知の力」を語りました。第二部は、内田樹・神戸女学院大学名誉教授との対談。内田氏は新たに代表世話人に選ばれ 4 人の共同代表による運営体制へと、大きく拡充されました。

## 夏目漱石と平和思想

2017年5月21日 井上 超(いのうえ・とおる)

僕は、9条の会の集まりに行くのは初めてでした。僕にとって夏目漱石といえば、高校倫理の「近代的自我の確立＝自己本位」であって、小説は中学校で「坊ちゃん」「こころ」を読まされたものの、どんな話だったか、さっぱり覚えていません。漱石研究第一人者、小森陽一先生から直接講義してもらえるから行こう！それに、キレッキレのコラム・エッセイと、武道家だから書ける身体論で、いつもワクワクさせてくれる内田樹先生に会える……。

講演は楽しく、夏目漱石の小説を読みたい……。現代文の先生が「小説は言葉の芸術」と言っていたが、漱石は言葉の芸術を駆使した読者参加型の仕掛けで、言論統制の時代に厳しい検閲を見事に掻い潜り、同時代を生きる人に個人・自由を尊重する強烈なメッセージを届けたと、わかったからです。

対談でも、「笑い」が知性を高めるという話でしたが、「共謀罪」「改憲」に押されて、将来を悲観しがちな今日こそ、「心に余裕を持って、いつもニコニコ笑って、知性を高めあうのがよろしい」と納得。知性的な話題、会場の一体感で「運動をする私たちは、弱者だから闘っている、じゃなくて、人間が築きあげた倫理・哲学の上に成り立っている運動を、真剣に楽しんでいるんだ」という気概をもてたことが一番のお土産です。

(西宮在住)

### 司法修習生が「7月集会」

### 7月16～17日、京都でシンポジウム

司法修習生というのは、弁護士など法曹三者になるために研修中の人たちのことですが、その司法修習生の有志が7月16、17の両日、今年も京都で「7月集会」という、社会問題についてのシンポジウムを開催します。

神戸をはじめ、阪神・淡路大震災の被災地で、いま社会問題となっている「借り上げ復興公営住宅」の問題をはじめ、様々な社会矛盾に関する分科会や、昨年の電通事件で波紋を広げた「過労死」問題に関する全体会などを通して、市民とともに、社会問題を考える企画です。

7月16日(日)13:00～15:30の前半分科会のテーマは、借り上げ復興公営住宅や子どもの権利、難民、沖縄問題。16:00～18:30の後半分科会のテーマは、ヘイトスピーチ、奨学金問題、LGBT、夜職女性問題。

翌7月17日(月・祝)10:00～13:00の全体会テーマは過労死で、会場はいずれも左京区の京都教育文化センター。これらはいずれも、第70期司法修習生7月集会実行委員会が主催します。

発見から理解へ

理解から行動へ

第70期司法修習生 7月集会

## 「軍事」ってそんなに悪くない？

高田 実

「戦争って、こうやって起きるんでしょうか」。

ある学生の質問です。最近、「軍事」に関することに、抵抗感がなくなっているような気がします。国政の議論はいうまでもなく、大学でも様子が変わります。防衛省から膨大な研究助成金が出され、この補助金を利用することに、抵抗を感じない先生もおられます。さらに、学生に「何を勉強したいの」と聞くと、「ヒトラーの軍事戦略です」という声が聞かれるようになりました。なんとゼミ生の半数近くが、軍事史で卒論を書きたいといっています。ゲームやファッションを通じた「ミリタリーおたく」が増えていることが、その背景にあるようです。まじめに戦争のことを考えようという学生もいますが、なんとなく危うさも感じます。

こんな感じで、どうも「軍事」への拒否感が薄まりつつあります。「戦争って、こうやって起きるんでしょうか」。これは大事な感覚ですね。

(甲南大学教授)



私のひとこと

## 子ども料理

坂本 廣子

子どもの食育に関わって、もう 40 年を越えました。始めたころの子どもたちも今や、いいお年。最近、「やっと、娘を教室に連れてこられました！」と、2 代目さんが多くなりました。自分が小学校の時に受けた授業を覚えていて、どうしても子どもに受けさせたいと願っていたので、という話を聞くと本当に嬉しく思います。

何故、そんなに覚えているの？ それは、「本当に、ちゃんと出来たから。私が作った、と思ったから」ということでした。自分を信じられた瞬間は、特別の時間だったのです。誰の手も借りず、やり遂げた達成感だったのです。それは、大人の言うことに従って、大人に手伝ってもらってではなく、「自分でしたの！出来たの！」という感動が、深く心に残っているのです。

子ども料理のポイントは、「大人の都合でなく、子どもの心に寄り添って」生涯忘れることの無い体験をすることです。見ていると、口も手も出したくなるけれど、じっと我慢！

小さな人ですもの。

(社会派料理研究家、相愛大学教授、学術博士)

# タコナ

公庄 れい

植物の生命力が猛烈な勢いで、人間に迫ってくるような季節である。筍のミニチュアのようなミョウガタケも、スーパーに顔を出している。子供のころ、タコナ飯と言われる混ぜご飯が、大嫌いだった。タコナはミョウガタケのこと、筍の古名タコウナが、紀州の山奥の村に残っているのである。「古事記」に、亡くなった最愛の妻、イザナミノミコトを訪ねて黄泉（よみ）の国へ行ったイザナギノミコトは、蛆（うじ）と八つの雷の神の群れる妻の体に恐れをなして逃げる。恥ずかしい状態を見られたイザナミが怒って、ヨモツシコメに追いかけてさせる。

その右の御みずらに刺させるユツツマ櫛を引き闕（か）きて投げ棄つるすなはちタカムナ生りき  
結髪した右の鬢（びん）に刺した櫛を抜き、その歯を折って投げると筍になった、とある。そんな古代の名を残すタコナは、もう今、この高野山奥の在所には、生えてこない。鹿と猪に、根まで食い尽くされてしまったのである。

（孫たちの将来を案じるおばあちゃんの会）

## 催し案内

「共謀罪」阻止、平和と民主主義を守る講演と映画の集い

講演：「戦前の悲惨な経験を繰り返さないために」 弁護士 羽柴 修 さん

映画：「火垂るの墓」 6月3日（土）13:30～ 御影公会堂 入場料 800円（高校生以下無料）

連絡先：小島(090-3927-9117) 堀 (090-2593-2313) 佐々木 (070-5666-0046) 主催：実行委員会

芦屋「九条の会」12周年記念のつどい

### けんぽうファースト

松元ヒロ爆笑ひとり芝居

日時：6月10日（土）14:00～（開場 13:30）

開場：上宮川文化センターホール

（JR 芦屋駅から南東へ徒歩5分）

参加協力費：1000円（大学生・高校生 500円）

主催：芦屋「九条の会」

連絡先：片岡 (090-7118-2312)

これからの憲法運動交流会

日時：6月18日（日）13:30～

会場：神戸芸術センター6階大会議室

（「新神戸」駅徒歩5分）

講演：「憲法をめぐる情勢と国民投票を

意識した取り組み」（羽柴修弁護士）

取り組み報告：芦屋「九条の会」など

主催：市民デモ HYOGO

参加費：500円（学生、避難者無料）

カンパの郵便振替口座

口座記号 00900-6

番号 0217129

名義 九条の会. ひがしなだ

憲法施行70年の5月3日未明、護憲・反差別の快男児・泥憲和（どろ・のりかず）さん逝去。享年六四。地元・姫路の5・5憲法集会では遺作も上演され、改めて泥さんの人柄と多才ぶりが浮き彫りにされました。合掌（T）前文部科学事務次官「行政のあり方として非常に問題がある」と記者会見で明言。トップの発言だけに重みがある。無視することは許されないだろう。（N生）